

2021 年 3 月 13 日 (土)

京都芸術大学学長 尾池和夫

京都芸術大学大学院芸術研究科（通信教育）を修了された 67 名の皆さま、芸術学部通信教育部を卒業された 600 名の皆さん、まことにおめでとうございます。

今回、大学院修了の方の中で最高齢は 89 歳、学部卒業の中で最高齢は 86 歳です。私は今 80 歳ですから、今の社会が生涯学習の中にあるという実感を持つ修了式、卒業式です。今日まで、ご家族の方々の支援があり、先生方の添削指導とスクーリングの工夫があり、それらに応える皆さんの努力があって、この日を迎えられました。遠隔で参列の学校法人瓜生山学園の役員、京都芸術大学の副学長、研究科長、学部長、教職員とともに心からお祝い申し上げます。

通信教育部には北海道から沖縄まで各地に学生がいて、卒業研究の課題もそれぞれの地元に関わるテーマが多く見られます。ウェブに公開された論文や作品がそのまま日本の姿を表現しています。

芸術教養学科の柏本理江さんの卒業研究の題目は「馬文化を守る十勝スピリット」です。大雪山系と日高山脈を背にして太平洋に向かって「とかち鹿追ジオパーク」があります。その広大な土地で、ばんえい競走という、競走馬が橇をひきながら力と速さを争う競馬、地方の公営競技としては唯一の北海道帯広市が主催する「ばんえい競馬（ばんえい十勝）」が行われます。そのばんえい競馬の発祥は、北海道の開墾時、共に畑仕事をする愛馬の力比べである「お祭りばん馬」です。この行事を守るということに発揮されている地域に受け継がれた開拓精神が、現代社会において進化をとげていることを高く評価して、柏本さんはそれを「十勝スピリット」と呼びました。

また、同じく阿部直樹さんの「岡崎市が生んだ「味噌六太鼓」」は、岡崎市で製造される「八丁味噌」を仕込む木桶を用いて作られた大太鼓（桶胴太鼓）のことを詳しく取材し、桶胴に用いられる 150 年以上も味噌仕込みに利用された古材の杉材で、味噌の香りがしみこんだ「味噌六太鼓」の文化遺産的価値について論じました。岡崎市は徳川家康生誕の地で、大樹寺は徳川氏の菩提寺であり、家康から 14 代家茂までの等身大の位牌がおさめられているそうですが、その岡崎の味噌六太鼓は、地域の様々な文化、歴史、伝統を象徴しており、きわめて優れた文化遺産であると評価しました。

さらに北藤好一さんは、「福井県立恐竜博物館のデザインは、子供たちにどのように伝える工夫がなされているか」で、恐竜溪谷ふくい勝山ジオパークとして 2009 年 10 月に日本ジオパークに認定された中にある福井恐竜博物館を含めた恐竜の町を紹介しました。博物館が、さまざまな方面に子どもたちが興味を持つように工夫した展示を試みている点と地球環境教育を評価しました。

デザイン科情報デザインコースの國兼弓華（ゆか）さんは、「NEO 曾根崎心中」で、3枚の手ぬぐいを広げ、そこに物語が再生されるという作品を展示しました。近松門左衛門の『曾根崎心中』の舞台を近未来に翻案し、漫画のコマ割りを使用して図案化し、手彫りで型紙を製作して藍染で表現し、手仕事としての染めを未来につなぐ意気込みをそこに感じさせました。

デザイン科建築デザインコースの上山くららさんの作品は、「持続可能な島の景色 ― 閾をほどく水の境界線―」です。閾とは英語で「threshold」で、意識を生む刺激の境界値のことです。沖縄県座間味村慶留間島を舞台として、持続可能な島の未来をデザインしました。慶留間島は、38世帯62名が住む島で、島留学制度で知られています。生徒たちは年末にはメーヌ浜で島の人たちとマースづくりをします。大鍋に海水を入れて炊き、時間をかけて美味しい塩を作るのです。神の宿るこの島に観光客が急増しています。世界でも有数の透明度を誇る海があります。その水に境界線を描き、山と海と人との交差点をデザインすることによって、観光客と島の暮らしの両者を守りつつ島の未来の景色を生み出すという島の空間を設計しました。

今日、この学園を出るとき、もう一度、「藝術立国之碑」を読んでください。そこに提唱されている理念を描いた創業者徳山詳直さんは85歳で亡くなりましたが、その創立の理念を私たちは今も受け継ぎ、芸術の力で人類の福祉に貢献する活動を続けていきたいと思っています。皆さんもどうか、この大学に学んだ感慨を、明日からの活動に活かしてほしいと思います。

この場所から卒業式の式辞を述べさせていただくのは、私にとってこれが最後です。皆さんと同期でこの大学を卒業します。私は、京都大学博士で、論文提出で博士の学位は持っていますが、大学院に入ったことがなく、修士の学位は持っていません。生涯学習の時代に、最終学歴を更新することが人生の目標になるとここで話してきました。自分も次は通信教育部修士課程に入学して修士の学位を得たいと思います。来月からは静岡県立大学の学長を務めます。その後、修士課程の入学式で、今日学士の称号を得られた方のどなたかと一緒になるかもしれません。どうかその時には声を掛けてくださるようお願いします。

くれぐれも体を大切にして活躍されるよう願っています。今日卒業される皆さんに、またいつかお目にかかりたいと思います。そのときには、ぜひご自分の仕事の話をお聞かせくださるようお願いして、式辞の結びといたします。

ご卒業、まことにめでたうございます。ありがとうございました。